

---

ユーザマニュアル

# 'Diff Doc'

発行 : SoftInterface, Inc.

Version 2.x



# 目次

<b>'Diff Doc'ユーザーズマニュアル</b>	<b>1</b>
はじめに .....	1
'Diff Doc'の特徴.....	1
フォルダの比較 .....	2
 フォルダの比較 .....	3
 比較オプション .....	4
 レポートオプション .....	4
ファイルの比較 .....	5
 ファイルの比較 .....	5
 比較オプション .....	8
 レポートオプション .....	10
ファイル内のテキストの検索 .....	10
 テキストの検索 .....	11
 検索オプション .....	11
 レポートオプション .....	12
コマンドラインインターフェイスの使用.....	12
コマンドラインの例 – 全般 .....	15
コマンドラインの例 – Excel .....	17
言語の切り替えまたは追加 .....	19
'Diff Doc'を使用するために必要なもの .....	20
更新情報 .....	20
インストール .....	20
アンインストール .....	21
<b>付属書類 A サンプルレポート</b>	<b>22</b>
テキストの比較（一括表示） .....	22
テキストの比較（2列表示） .....	23
<b>付属書類 B トラブルシューティング</b>	<b>27</b>
一般的な問題 .....	27




# 'Diff Doc'ユーザーズマニュアル

---

## はじめに

ユーザーは高速で正確な文書比較機能を求めてきましたが、今やそれを手にすることができるようになりました。'Diff Doc'はパワフルでしかも使いやすい文書比較・補正ユーティリティです。MS Word/Excel、RTF、テキストおよび（あるいは）HTMLなどの文書を比較するのに使用することができます。

現在使用しているエディタ（MS Word、ワードパッド、Visual Basicなど）が何であれ、**オリジナル**のファイルと**修正**したファイルをロードして [更新]  ボタン（または [F5]）を押してください。すると、“visual-diff”がただちに表示されます。**編集しながら動的に表示すべきテキストの比較**を考慮して、'Diff Doc'ツールで自動更新をおこなうことができます。

テキストやファイルをコピーし、アプリケーションに貼り付けて（またはロードして）、[相違点を表示] ボタン（または [F5]）を押すというように、'Diff Doc'の操作は簡単です。もちろん、'Diff Doc'のすべての能力を発揮できるようにするには、説明しなければならないいくつかのオプションや機能があります。

SoftInterfaceでは、絶えず製品の向上と改良に努めています。弊社のウェブサイトでは最新情報に目を通し、弊社の製品に対するご意見をお寄せください (<http://www.softinterface.com/>)。

---

## 'Diff Doc'の特徴

- MS Wordの文書、リッチテキスト（RTF）、テキストまたはHTMLの比較をおこないます。
- どのようなタイプのファイルでも相互に比較します（たとえば、MS WordとWordperfectの文書の比較）。
- このアプリケーションで文書を編集し、[相違点ビューア] の表示を手動でまたは自動的に更新します（**高速比較**）。
- [次へ]（F7）や [前へ]（Shift+F7）などの移動ボタンで、簡単に相違点に目を通すことができます。あるいは、ドロップダウンリストボックスを使用して特定の相違点にジャンプすることも可能です。




- アプリケーションからテキストを比較することができます。
- パラグラフの相違点を詳細に表示します。
- [2列表示] と [一括表示] の両方をサポートします。
- “DOC”、“RTF”または“HTML”の形式で表示を保存します。
- 結果を印刷したりE-mailで送ったりすることを考慮して、詳細なHTMLレポートが利用可能です。 [2列比較レポート] と [一括比較レポート] の両方をサポートします。
- フォントを考慮し、書式をそのままに保って、リッチテキストを比較することもできます。
- テキストレポートやカンマ区切りレポートも利用可能です。
- “DOC”、“TXT”または“HTML”のいずれかの形式でロードおよび保存します。





'Diff Doc'は、ユーザーがどのようにしてアプリケーションを終了したかも記憶します。メインウィンドウを含むそれぞれのウィンドウは、終了時の状態に保たれます。

---

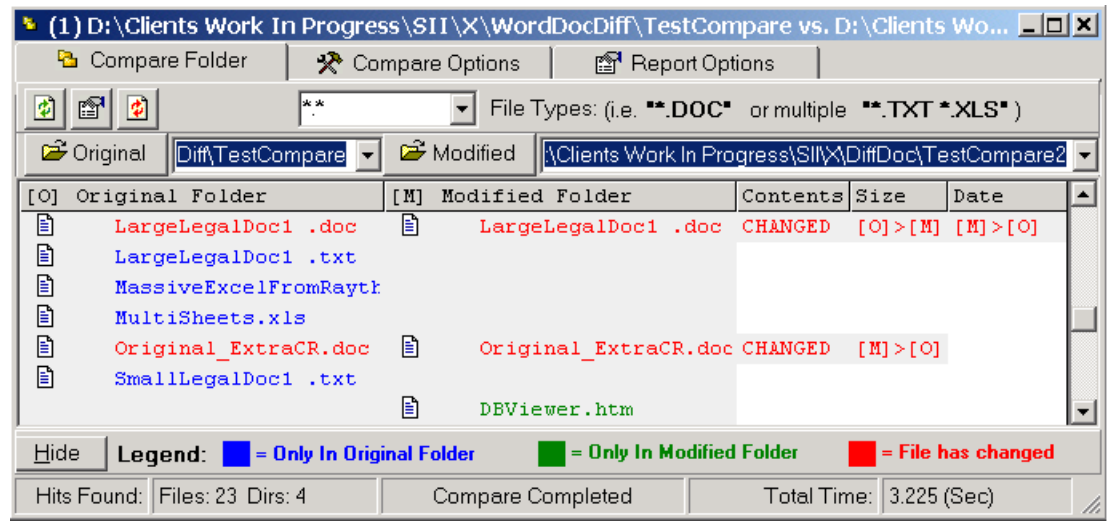
## フォルダの比較

フォルダの比較を使用して、フォルダの現在の内容の概観を表示してください。それぞれのフォルダにどのようなファイルがあるか、およびそれらのファイルが相互に関連して変化したかどうかを確認します。日付、サイズ、内容についてそれぞれのフォルダを比較することができます。 [Ctrl] - [D] を押して [フォルダの比較] フォームを開くか、またはメインメニューから [ファイル] - [フォルダの比較] を選択します。


[フォルダの比較] フォームには、 フォルダの比較、 比較オプション、および  レポートオプション の3種類の主要なタブがあります。それぞれのタブについては、下記で詳細に解説します。フォルダの比較をすぐに始めるには、以下の手順に従ってください。


1. [ファイル] メニューから [フォルダの比較] を選択するか、あるいは [Ctrl] - [D] を押します。
2.  ボタンを使用して [オリジナルフォルダ] を選択します。
3.  ボタンを使用して [修正フォルダ] を選択します。
4. [比較オプション] タブをチェックして、比較基準が適切であることを確認します (詳細については下記を参照)。
5. [F5] または  ボタンを押して [相違点ビューア] の表示を更新します。
6. [ESC] キーまたはツールバーの [中止] ボタン  を押すと、表示の更新を中止することができます。
7. 変更したファイル (赤で反転表示) をダブルクリックしてフォルダ内のファイルを素早く比較します。


## フォルダの比較



注：フォルダ内のファイルを比較するには、結果が赤で示されているファイルをダブルクリックします。ファイル比較画面が別のウィンドウに表示されます

ツールバーに「更新」ボタンが表示されます。このボタンを押すと、現在選択しているオプションを用いてフォルダの比較が開始されます。[F5]を押しても同じことです。

「更新」ボタンの右にあるのは「レポート作成」ボタンです。これをクリックすると、表示されている結果のレポートが作成されます。レポートは、[F2]ボタンを押しても作成することができます。

オリジナルのフォルダと修正したフォルダを素早く入れ替えたい場合は、ツールバーのボタンかまたは[F2]を押します。「相違点ビューア」の表示が自動的に更新します。

ファイルタイプドロップダウンリストボックスでは、比較したいファイルタイプを指定することができます。このリストボックスを空白にすると、すべてのファイルタイプ (\*.\*) を比較します。複数のファイルをスペースで区切って指定すると、それらのファイルをまとめて比較することができます。たとえば、すべての“TXT”ファイルと“DOC”ファイルと比較するには、“\*.TXT \*.DOC”と入力します。

画面の底部の凡例は、色分けの意味を説明しています。メインメニューの「表示」メニュー項目から「凡例の表示」を選択することにより、凡例の表示と非表示を切り換えることができます。

ファイルの内容が変更されると、そのファイルは赤で表示され、内容属性は「変更」というキーワードで表されます。サイズが変更されると、サイズ属性はファイルが大きくなっていることを示します。たとえば“[O]>[M]”と表示された場合、これはオリジナルのファイルが修正されたファイルよりも大きかったことを意味します。日付についても同様に表示されます。修正されたファイルが新しい場合、日付の数値が大きくなるため、日付属性には“[M]>[O]”と表示されます。

## 🔍 比較オプション

フォルダの比較に関連するオプションを以下に示します。

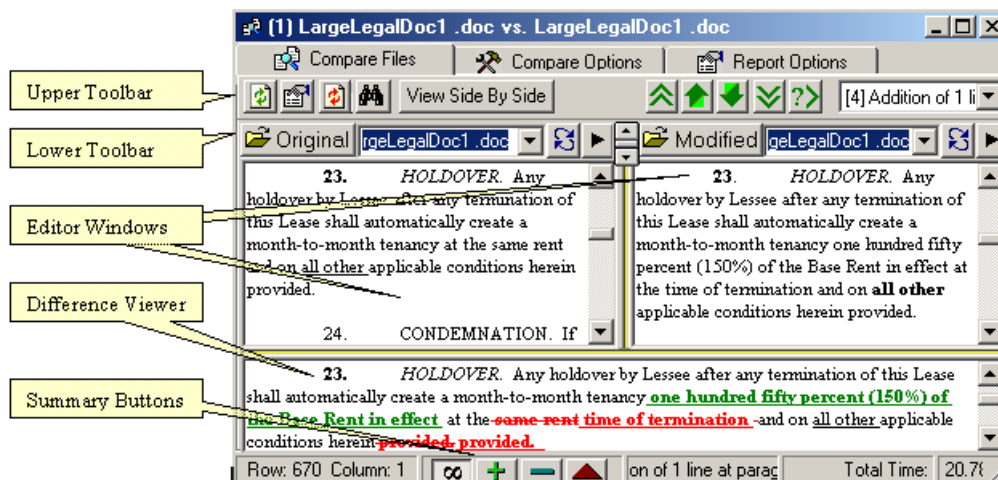
設定	詳細
オリジナルフォルダにのみ存在するファイルを示す	オリジナルフォルダには存在するが、修正フォルダには存在しないファイルを表示します。
修正フォルダにのみ存在するファイルを示す	修正フォルダには存在するが、オリジナルフォルダには存在しないファイルを表示します。
ファイルの内容を比較する	オリジナルフォルダと修正フォルダの両方にファイルが存在する場合、ファイルの内容を比較して結果を表示します。「両方のフォルダにあって内容が同じファイルを示す」と「内容が異なるファイルを示す」も参照してください。
両方のフォルダにあって内容が同じファイルを示す	類似した名前でも内容が同じファイルを表示します。比較基準には、ファイル名、ファイル内容、および場合によってはファイルの日付が含まれます。
内容が異なるファイルを示す	類似した名前でも内容が異なるファイルを表示します。比較基準には、ファイル名、ファイル内容、および場合によってはファイルの日付が含まれます。
日付の違いを無視する	ファイル比較の3種類の基準の一つとして日付を除外します（内容とサイズは依然として有効な基準です）。
サブフォルダを調べる	サブフォルダ内のファイルと比較します。
検索終了時にすべての結果を示す	これは比較の作業速度を上げる場合に選択します。これがチェックされていない場合、プログラムは結果を受け取るたびにそれを表示します。これはフォルダの比較作業の進行中にプログラムを使用する場合に便利です。
終了時のビープ音	これを選択すると、'Diff Doc'はフォルダの比較が完了したことをビープ音で知らせます。

## 📄 レポートオプション

このオプションでは、タブ区切り形式のレポートファイルの名前とフォルダを指定することができます。

## ファイルの比較

ファイルの比較は'Diff Doc'の最も重要な機能です。[ファイルの比較]を開くには、[Ctrl] - [F] を押すか、または [ファイル] メニューから [ファイルの比較] を選択します。





[ファイルの比較] フォームには、[ファイルの比較]、[比較オプション]、[レポートオプション] の3種類の主要なタブがあります。それぞれのタブについては、下記で詳細に解説します。

### ファイルの比較

これは、最も頻繁に使用する [ファイルの比較] タブにあります。3種類または最大4種類のエディタボックスが常に表示されています。上段の2種類のエディタボックスはいつでも利用可能で、これらは [オリジナルエディタ] および [修正エディタ] と呼ばれます。必要ならば、[F8] を押してこれらのエディタボックスをトグルでオフに切り換えることができます。下段のテキストエディタは [相違点ビューア] と呼ばれます。[相違点ビューア] には、[オリジナルエディタ] と [修正エディタ] との違いが更新されて表示されます。

比較作業の最初の手順は、以前に保存したファイルを開いたり、データをコピーして貼り付けたり、あるいは新しいテキストを作成するなどして、[オリジナルエディタ] と [修正エディタ] の両方をロードすることです。以前に保存したファイルを [ファイル] メニューを使用してロードします。あるいは、ロードしたいエディタの上にマウスを移動させ、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。[このエディタにファイルをロード] を選択してください。コピーと貼り付けは別のプログラムでおこなわれます。しかし、ほとんどの場合、テキストを反転表示して [Ctrl] - [C] を押すだけでそのテキストがコピーされます。それを貼り付けるには、[オリジナルエディタ] か [修正エディタ] をクリックして [Ctrl] - [V] を押すだけです。

次に、[相違点ビューアの表示を更新] ボタン  (または [F5]) を押します。[オリジナルエディタ] ボックスと [修正エディタ] ボックスとの相違

点が [相違点ビューア] に表示されます。ツールバーの [中止] ボタンを押すと表示の更新を中止することができます。

デフォルトの色	意味
赤	変更が発生しました。オリジナルのテキストは赤の太字で取消線とともに表示されるのに対し、修正されたテキストは赤の太字でアンダーラインとともに表示されます。
緑	オリジナルの文書のサイズが増えました。この場合、緑の太字で表示されます。
青	オリジナルの文書のサイズが減りました。この場合、青の太字で取消線とともに表示されます。

### 相違点エディタの凡例

#### オリジナルの文書と修正された文書での選択テキストの比較

オリジナルエディタと修正エディタにおける選択テキストの比較は、位置合わせの問題を解決したり、あるいはファイルのさまざまなセクションの内容を単純に比較したりするためのひじょうにパワフルなツールです。

---


注：「テキストを選択」するには、マウスをクリックして（マウスボタンを押したまま）、対象のテキスト部分までマウスをドラッグし、最後にマウスボタンを放します。

---

通常、ファイルの比較は、修正エディタとオリジナルエディタをロードおよび（あるいは）再ロードすることによっておこないます。テキストがこの二つのエディタに表示されたら、それぞれのテキストの一部を選択してマウスを右クリックし、次に [選択したテキストを比較] を選択します（[表示] メニューから選択することも可能です）。選択した内容が新しいウィンドウに表示され、[相違点ビューア] の表示が自動的に更新します。

新たに開いたウィンドウの [比較オプション] はオリジナルのものとは異なっていることがあるということに留意してください。特に、[更新オプション] が異なっている場合があります。

#### レポートの作成 (F2)

レポートは、ツールバーの [レポート] をクリックするか、[F2] を押すか、または [表示] メニューから [レポート] を選択することによって作成します。別のウィンドウで開くレポートは、 [レポートオプション] タブで指定される基準に基づいています。詳細については後述の説明を参照してください。

マウスの右ボタンを使用すると、エディタまたはビューアを印刷したり、保存したりすることもできます。あるいは、マウスの左ボタンでエディタまたはビューアを選択してから、[ファイル] メニューを介して印刷や保存を実行することができます。

---

注：MS WordまたはHTMLを保存するには、コンピュータにMS Wordをインストールしておかなければなりません。

---

### オリジナルエディタと修正エディタの交換 (F9)

[交換] ボタン (または [F9]) は、オリジナルエディタと修正エディタの内容を入れ替えて、[相違点ビューア] の表示を自動的に更新します。[比較オプション] タブで [選択したファイルの再ロード] を選択すると、ファイルが再ロードされます。あるいは、テキストだけが入れ替わります。

### 検索と置換 (F3)

[検索・置換] ボタンはエディタまたはビューアでテキストを捜し出すのに使用します。エディタかビューアのどちらか必要な方をクリックして [F3] を押すと検索が開始されます。

---

注：[ファイルの比較] タブから実行できるすべての主要な機能は、[表示] メニューからも利用することができます。

---






### 表示のトグル切り替え (F6)

ツールバーで最も大きなボタンは、[相違点ビューア] で [一括表示] と [2列表示] を交互に切り替えます。一般的には、文学的な内容を取り扱う人は [一括表示] を好むのに対し、ソースコードを処理するプログラマは1行ごとの比較が簡単にできる [2列表示] を好みます。この2種類の表示を交互に切り換えることにより、赤線引きが実際にどのように機能しているかを理解することができます。

もう一つの表示オプションは、[表示] メニューの [ワードラップ] です。[ワードラップ] をオンにすると、ファイルは水平にスクロールする必要なしにウィンドウの可視領域の幅に合わせて表示されます。[ワードラップ] をオフにすると、復帰改行されるまでのそれぞれの行が表示されます。

### 検出した相違点間の移動 (F7、Shift-F7...)

[相違点ビューア] の表示が更新して、少なくとも一つの相違点が検出されると、移動ツールバー/キーを使用することができます。利用可能なコマンドを下記の表に示します。

ボタン	目的
 Ctrl-Shift-F7	最初の相違点にジャンプします。
 Shift-F7	前の相違点にジャンプします。
 F7	次の相違点にジャンプします。
 Ctrl-F7	最後の相違点にジャンプします。
 F4	指定した相違点 (番号) にジャンプします。

上段のツールバーの右端にはドロップダウンリストボックスもあります。これは、移動に利用できる識別テキストとともに相違点を表示します。項目を選択すると、その場所に移動することができます。

### エディタウィンドウのオン・オフのトグル切り換え (F8)

[F8] をクリックすると、エディタウィンドウをトグルで閉じたり開いたりすることができます。エディタが閉じると、[相違点ビューア] は表示領域全体を占有します。あらゆるウィンドウは、ドラッグするだけで希望のサイズに変更することも可能です。

### 選択ファイルの再ロード

ドロップダウンリストからファイルを選択するか、またはファイル名を直接リストボックスに入力してからこのボタンをクリックすると、そのファイルをロードすることができます。これは、複数のファイルを切り換える際に時間を節約する便利な機能です。

### デフォルトのアプリケーションで選択ファイルを開く





ファイルの拡張子に応じて、ネイティブアプリケーションで別のウィンドウにファイルを開きます（たとえば、“.doc”ならばMS Word、“.xls”ならばExcel、“.rtf”または“.txt”ならばノートパッド）。

### パラグラフスクローラ

これは下段のツールバーの中央にあります。矢印をクリックして、すべてのエディタウィンドウ内のテキストをパラグラフごとに同時にスクロールします。このパラグラフスクローラの中央にマウスを置いて両方向矢印が表示された時にドラッグすると、すべてのウィンドウを素早く同時にスクロールすることができます。


### 要約ボタン

'Diff Doc'ステータスバーの上のWindowsステータスバーのすぐ上には4種類のボタンがあり、[相違点ビューア] で検出されたそれぞれの変更の種類を要約して表示することができます。

ボタン	目的
	[相違点ビューア] で検出された相違箇所をすべて表示します。
	[相違点ビューア] で追加された箇所のみを表示します。
	[相違点ビューア] で削除された箇所のみを表示します。
	[相違点ビューア] で変更された箇所のみを表示します。

### 比較オプション


一般オプション

[比較オプション] タブには以下のような項目があります。

設定	詳細
大文字・小文字を無視	大文字と小文字の違いを無視します。
空白を無視	空白文字（水平タブ、垂直タブ、新しい行、用紙送り、復帰改行、およびスペース）を無視します。
空白行を無視	何も記述されていない行を無視します。空白文字があれば空白行とはみなされません。
終了時のビーブ音	これが設定されていると、比較作業の終了時にシステムがビーブ音を出します。
アプリケーションの起動時に 前回の作業ファイルをロード	プログラムの前回の終了時に作業していたファイルを再ロードします。

### ファイル比較オプション

#### 更新オプション

[F5] または  ボタンを押すと、[相違点ビューア] の表示が更新されます。この時、必要ならば比較をおこなう前に選択したファイルを [オリジナルエディタ] および [修正エディタ] に再ロードすることができます。あるいは、これらのエディタにすでにロードされているテキストが再検査されて最新の変更がチェックされます。

[自動更新] 機能を有効にしておくこともできます。これを有効にしておくと、[相違点ビューア] の表示が自動的にしかも定期的に更新されます。更新の間隔はこのタブで設定します。

---

注：ファイルを [オリジナルエディタ] または [修正エディタ] にロードする場合、[自動更新] は自動的に無効になります。これは、比較作業をおこなう前に2種類のファイルをロードすることを考慮しています。

---

#### 印刷オプション

このフォームのすべてのエディタについて、ページの上下左右の余白をここで指定することができます。

#### 表示オプション

これらのオプションは、変更、追加または削除を [相違点ビューア] にどのように表示するかを制御します。フォントの色、背景色、アンダーライン、取り消し、太字および斜体をすべて望みどおりに設定することができます。

ある一つの相違点から次の相違点に移動する場合、必要ならば、変更したパラグラフを [相違点ビューア] に全面的に選択させることができます。[オリジナルエディタ] と [修正エディタ] は自動的に反転表示されます。


#### Excelファイルオプション

比較すべきワークシート、行および列を設定し、数式を比較するかどうかを指定します。

#### HTMLファイルオプション

HTMLソースファイルを比較するには、この項目を選択しなければなりません。

## レポートオプション

作成したレポートは [ レポートオプション] タブの設定に依存します。HTML、テキスト、カンマ区切り、MS Wordの4種類のファイルタイプの一つを [全般] タブから選択します。HTMLレポートには、[一括表示] または [2列表示] のどちらかを指定するためのもう一つのオプションがあります。

さらに、それぞれのファイルタイプは、作成中のレポートのデフォルトの名前やパスを変更するために選択できる個別のタブをそなえています。MS Wordのレポートについては、すべての相違点をレポートするのか、あるいは追加、削除、または変更箇所のみをレポートするのかを指定することができます。HTMLのレポートでは、[オリジナルカラムタイトル] および [修正カラムタイトル] に代替名を指定することにより、オリジナルの文書や修正した文書の名前を一時的に無効にすることができます。

もちろん、[ファイル] メニューからいずれかのエディタを印刷することも可能です。




### 印刷と電子メールによるレポート

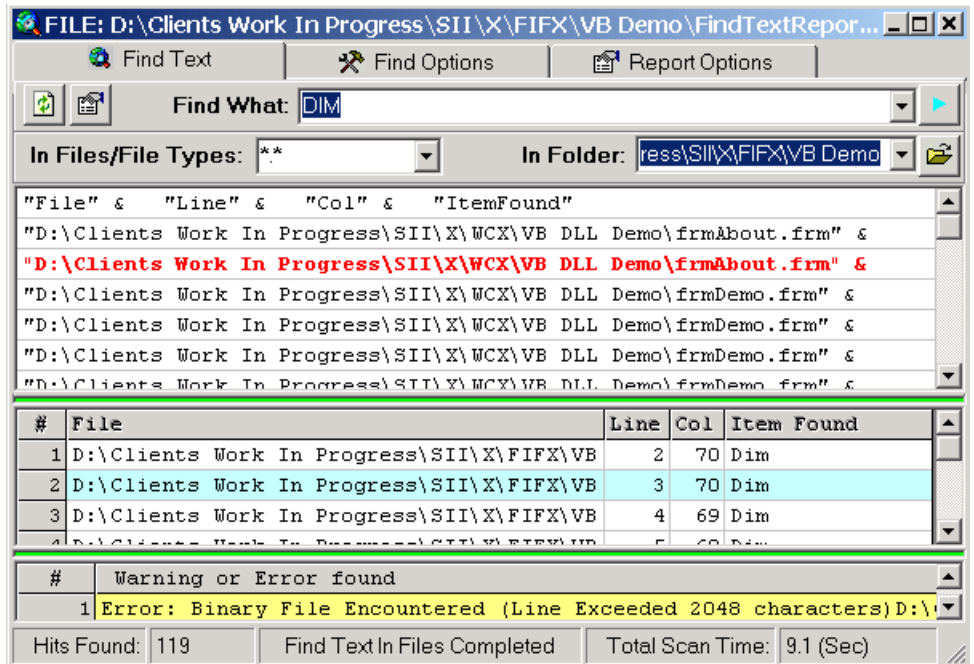
レポートを作成したら、該当するアプリケーションでそれを利用することができます。HTMLのレポートはブラウザに表示されます。ブラウザは、通常、[ファイル] メニューから保存したり、印刷したり、電子メールで送ったりする機能をそなえています。その他のレポートはノートパッドまたはMS Wordで表示され、表示したそのアプリケーションで印刷、編集、保存することができます。

---

## ファイル内のテキストの検索

いくつかのフォルダやファイルタイプにおける文書内のテキストの検索はひじょうに便利です。ファイル内のテキストを検索するには、[Ctrl] - [I] を押すかあるいは [ファイル] メニューから [ファイル内のテキストの検索] を選択します。いったん開始された検索は、[ESC] またはツールバーの [中止] ボタンを押して停止させることができます。[テキストの検索]

フォームには、 [ テキストの検索]、 [ 検索オプション] および [ レポートオプション] の3種類の主要なタブがあります。それぞれのタブについては、下記で詳細に解説します。




## テキストの検索

テキストを検索するには、以下の手順に従ってください。

1. 検索したい文字列を [検索文字列] ドロップダウンリストボックスに入力します。
2. 検索対象とするファイルタイプを [ファイル/ファイルタイプ] ドロップダウンリストボックスにアスタリスク (\*) に続けて入力します。複数のファイルタイプを入力する場合は、コンマで区切ってください (例 : \*.doc, \*.xls, \*.htm)。
3. 検索を実行したいフォルダを [検索フォルダ] ドロップダウンリストボックスで選択します。
4. [検索オプション] タブで検索オプションを選択します。
5. [F5] または [更新] ボタンを押して検索を開始します。

検索した項目のレポートを作成および (あるいは) 印刷するには、[表示] メニューから [レポート] を選択するかまたはツールバーの [レポートの表示] ボタンを押します ([F2] でレポートを作成することもできます)。

ツールバーには [更新] ボタン  があります。このボタンを押すと、前回は設定したオプションでテキストの検索が再開されます。[F5] を押しても同じことです。検索を中止するには、[ESC] またはツールバーの [中止] ボタンを押します。

## 検索オプション

テキストの検索に関連のオプションを以下に示します。

設定	詳細
----	----

終了時のビーブ音	検索が終了したことをビーブ音で知らせる場合に選択します。
大文字・小文字の違いを認識	<b>選択した場合</b> ：[検索文字列]の属性で指定した大文字と小文字の厳密な組み合わせに従ってすべてを検索します。 <b>選択しない場合</b> ：[検索文字列]の属性で指定した文字列の大文字と小文字の違いを無視してすべてを検索します。
サブフォルダを調べる	指定した[検索パス]に基づくすべてのディレクトリを検索する場合に選択します。
正規表現	[検索]文字列で詳細に指定した正規表現を検索エンジンに使用させる場合に選択します。正規表現については、下記で解説します。
検索終了時にすべての結果を示す	これを選択すると、検索終了時にすべての結果が表示されます。これを選択しない場合は、検索がおこなわれるたびに結果が表示されます。終了時に結果を表示することにより、全体的な検索時間が速くなります。
MS WordとExcelをサポート	これらのバイナリファイルでテキストの検索を可能にするには、このオプションを選択します。
単語全体のみ	<b>選択した場合</b> ：指定した文字列に完全に一致する単語のみを検索します。 <b>選択しない場合</b> ：前後のテキストを無視して[検索文字列]を検索します。

### サポートされる正規表現記号

検索機能を柔軟に使用するために、検索エンジンによってキーキャラクタ/記号が構文解析されます。正規表現記号は、[検索文字列]ドロップダウンリストボックスの右横の[▶]ボタンで簡単に利用することができます。以下のキーキャラクタがサポートされます。

キー	意味	用法
?	任意の1文字に適合するかまたは任意の1文字が存在しないものとみなす。	'v'と's'の間に何も文字が存在しないキャラクタまたは'v'と's'の間に任意の1文字があるキャラクタをすべて検索します。 "v?s" 検索結果例："vis"、"v_s"、"vs"など
*	任意の文字列に適合するかまたは任意の文字列が存在しないものとみなす。	"sion"で終わる語句をすべて検索します。 "*sion"

		検索結果例 : "passion"、"vision"
[ ]	角括弧内のどれか1文字に適合する。	"visib"と"visio"の両方に該当する単語をすべて検索します。 "visi[b,o]" 検索結果例 : "visibly"、"vision"
\	バックスラッシュの直後の文字に厳密に適合する。	大文字で終わる"visibly"に該当する単語をすべて検索します。 "visibl\Y" 検索結果例 : "visiblY"、"VisiblY"。 語尾の"Y"以外については、大文字・小文字を無視します。
^	文字列の先頭を指定する。	正規表現の最初の文字を指定します。 "^PleaseBeFirst" 検索結果例 : "PleaseBeFirst ok?"
\$	文字列の語尾を指定する。	正規表現の最後の文字を指定します。 "^PleaseBeLast\$" 検索結果例 : "Ok now PleaseBeLast"

## 📄 レポートオプション

ここでは、タブ区切り形式のレポートファイルの名前とフォルダを指定することができます。

---

## コマンドラインインターフェイスの使用

参照 :

- コマンドラインの例 - 全般
- コマンドラインの例 - Excel

'Diff Doc'は、なつかしいDOSの時代で使われたようなコマンドライン引数を用いて実行することができます。あるいは、Windowsの [スタート] メニューの [ファイル名を指定して実行] にコマンドを入力して'Diff Doc'を起動することも可能です。コマンドラインの構文は以下のとおりです。

**DiffDoc /M**{オリジナルファイル} **/S**{修正ファイル} **/I** **/W** **/Q** **/A** **/B** **/E** **/H** **/X** **/Y#** **/Z#** **/1 - 4** **/T**{レポートファイル} **/R#** **/F#** **/L**{ログファイル} **/V** **/O** **/D** **/C**

角括弧"[ ]"内の項目はオプションであり、その他の「スイッチ」はすべて必須です。したがって、/Mと/Sはコマンドラインで必ず指定しなければなりません。

スイッチとパラメータの間にはスペースを入れても入れなくてもどちらでもかまいません。たとえば、"/R1"と"/R 1"は同じです。長いファイル名の場合は、二重引用符を使用する必要があります。例：/S"C:\Program Files\MyApp\MyDoc.DOC"

**重要：**コマンドラインを問題なく使用するには、下記のどちらかをおこなわなければなりません。

- A) DiffDoc.EXEが置かれている場所に対して環境変数でパスを設定する。
- B) DiffDoc.EXEをバッチファイルと同じフォルダにコピーする。

さもないと、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

「内部または外部コマンド、使用可能なプログラム、あるいはバッチファイルとして'Diff Doc'が認識できません」

それぞれのスイッチの詳細を以下に解説します。最も頻繁に使用される順に示します。

スイッチ	説明
/M{オリジナルファイル}	オリジナルファイルと修正ファイルを比較します。 "/S{修正ファイル}"も参照してください。
/S{修正ファイル}	オリジナルファイルと修正ファイルを比較します。 "/M"も参照してください。
/I	ファイルの比較の際に大文字・小文字の違いを無視します。
/W	ファイルの比較の際に空白文字（タブ、スペースなど）を無視します。
/E	空白行を無視します。
/B	ファイル比較作業の完了時にビープ音を出します。
/X	比較作業完了時にアプリケーションを終了します。
/Q	ファイルを比較する際に高速ファイル比較をおこないません。
/L{ログファイル}	比較作業の成功または失敗を記録するログファイルを指定するには、このスイッチを使用します。
/V	冗長モード。メッセージボックスに比較の詳細を表示させるには、このスイッチを使用します。
/T{レポートファイル}	レポートファイルを作成しようとする場合は、このスイッチを使用して出力対象ファイルの名前を指定しなければなりません。
/R#	レポートフォーマット：1 = HTML、2 = テキスト、3 = CSV、4 = MS Word。デフォルトはHTMLです。MS Wordは <b>一括表示</b> 、/F1しかサポートしないということに留意してください。
/F#	レポートスタイル：1 = 一括表示、2 = 2列表示。デフォルトは2列表示です。MS Wordは <b>一括表示</b> 、/F1しかサポートしないということに留意してください。
/O	比較作業完了時にレポートを開きます。レポートファイルのタイプに応じて、ノートパッドまたはInternet Explorerが起動します。

<b>/Y#</b>	Excel。比較するオリジナルシートの番号。デフォルトは1です。
<b>/Z#</b>	Excel。比較する修正シートの番号。デフォルトは1です。
<b>/A</b>	Excel。Excelファイル内の数式を比較します。
<b>/1</b>	Excel。比較するマスターファイルの行を選択します。構文例は、"1,5-10,20"です。この場合、シート内の単独のセクションはコンマで区切り、連続するセクションについてはダッシュ（ハイフン）でその範囲を示します。すべての行を比較するには、"*"を使用します。デフォルトでは、すべての行が選択されます。
<b>/2</b>	Excel。比較するオリジナルファイルの列を選択します。構文例は、"1,5-10,20"です。この場合、シート内の単独のセクションはコンマで区切り、連続するセクションについてはダッシュ（ハイフン）でその範囲を示します。すべての列を比較するには、"*"を使用します。デフォルトでは、すべての列が選択されます。
<b>/3</b>	Excel。比較する修正ファイルの行を選択します。構文例は、"1,5-10,20"です。この場合、シート内の単独のセクションはコンマで区切り、連続するセクションについてはダッシュ（ハイフン）でその範囲を示します。すべての行を比較するには、"*"を使用します。デフォルトでは、すべての行が選択されます。
<b>/4</b>	Excel。比較する修正ファイルの列を選択します。構文例は、"1,5-10,20"です。この場合、シート内の単独のセクションはコンマで区切り、連続するセクションについてはダッシュ（ハイフン）でその範囲を示します。すべての列を比較するには、"*"を使用します。デフォルトでは、すべての列が選択されます。
<b>/H</b>	HTML。テキスト形式の内容ではなく、ソースを比較します。
<b>/D</b>	フォルダ（ディレクトリ）を比較します。“/C”スイッチも参照してください。
<b>/C</b>	サブフォルダを比較します。“/D”スイッチが使用されている場合にのみ有効です。
<b>/?</b>	この情報が表示されます。
<b>/???</b>	弊社にお問い合わせください。 <a href="mailto:Info@SoftInterface.com">Info@SoftInterface.com</a> にメールをいただければご返答させていただきます。

コマンドラインで使用されるすべてのスイッチ

## コマンドラインの例 – 全般

参照：

コマンドラインインターフェイスの使用

## コマンドラインの例 – Excel

必要に応じて選択すべきサンプルを下記に示します。最も必要性に適合した例を選択して、適切に修正してください。

```
=====
: Diff Doc. (WWW.SoftInterface.COM)
:
: 最も必要性に適合した例を選んで適切に修正してください。
: 例1-5、テキストファイルの比較
:   例1 (二つのファイルを比較、2列表示)
:   例2 (二つのファイルを比較、一括表示)
:   例3 (二つのファイルを比較、一括表示、HTML形式のレポートを作成、比較作業完了時
:   に終了)
:   例4 (二つのファイルを比較、テキスト形式のレポートを作成、比較作業完了時に終
:   了)
:   例5 (二つのファイルを比較、CSV形式のレポートを作成、比較作業完了時に終了)
:
: 注: 長いファイルパスについては、二重引用符を使用します。
:     例: /L"D:\長いパス\A.XLS"
:
=====

-----
:   例1 (二つのファイルを比較、2列表示)
:
: "D:\A\Aristotle.TXT"と"D:\A\Socrates.TXT"を比較する:
:           /M d:\a\Aristotle.TXT /S d:\a\Socrates.TXT
: ログファイルD:\a\Compare.LOGを作成する: /L D:\a\Compare.LOG
:-----

DiffDoc /M d:\a\Aristotle.TXT /S d:\a\Socrates.TXT /L
D:\A\compare.LOG

-----
:   例2 (二つのファイルを比較、一括表示)
:
: "D:\A\Aristotle.DOC"と"D:\A\Socrates.DOC"を比較する:
:           /M d:\a\Aristotle.TXT /S d:\a\Socrates.TXT
: 一括表示する: /F1
: ログファイルD:\a\Compare.LOGを作成する: /L D:\a\Compare.LOG
:-----

DiffDoc /M d:\a\Aristotle.DOC /S d:\a\Socrates.DOC /F1 /L
D:\A\compare.LOG

-----
:   例3 (二つのファイルを比較、一括表示、HTML形式のレポートを作成、比較作業完了時
:   に終了)
:
: "D:\A\Aristotle.DOC"と"D:\A\Socrates.DOC"を比較する:
:           /M d:\a\Aristotle.DOC /S d:\a\Socrates.DOC
: 一括表示する: /F1
: "D:\a\Report.HTM"のファイル名でHTML形式のレポートを作成する: /R1 /T
: D:\a\Report.HTM
: レポートを開く: /O
: ログファイルD:\a\Compare.LOGを作成する: /L D:\a\Compare.LOG
: 比較作業完了時に終了する: /X
:-----

DiffDoc /M d:\a\Aristotle.DOC /S d:\a\Socrates.DOC /F1 /R1 /T
D:\a\Report.HTM /O /L D:\A\compare.LOG /X

-----
```

```

:   例4 (二つのファイルを比較、テキスト形式のレポートを作成、比較作業完了時に終
了)
:
: "D:\A\Aristotle.DOC"と"D:\A\Socrates.DOC"を比較する:
:           /M d:\a\Aristotle.DOC /S d:\a\Socrates.DOC
: 一括表示する: /F1
: "D:\a\Report.TXT"のファイル名でHTML形式のレポートを作成する: /R2 /T
D:\a\Report.TXT
: レポートを開く: /O
: ログファイルD:\a\Compare.LOGを作成する: /L D:\a\Compare.LOG
: 比較作業完了時に終了する: /X
:-----

```

```

DiffDoc /M d:\a\Aristotle.DOC /S d:\a\Socrates.DOC /F1 /R2 /T
D:\a\Report.TXT /O /L D:\A\compare.LOG /X
:-----

```

```

:   例5 (二つのファイルを比較、CSV形式のレポートを作成、比較作業完了時に終了)
:
: "D:\A\Aristotle.DOC"と"D:\A\Socrates.DOC"を比較する:
:           /M d:\a\Aristotle.DOC /S d:\a\Socrates.DOC
: 一括表示する: /F1
: "D:\a\Report.CSV"のファイル名でCSV形式のレポートを作成する: /R2 /T
D:\a\Report.CSV
: レポートを開く: /O
: ログファイルD:\a\Compare.LOGを作成する: /L D:\a\Compare.LOG
: 比較作業完了時に終了する: /X
:-----

```

```

DiffDoc /M d:\a\Aristotle.DOC /S d:\a\Socrates.DOC /F1 /R3 /T
D:\a\Report.CSV /O /L D:\A\compare.LOG /X

```

---

## コマンドラインの例 – Excel

参照:

コマンドラインインターフェイスの使用

コマンドラインの例 – 全般

必要に応じて選択すべきサンプルを下記に示します。最も必要性に適合した例を選択して、適切に修正してください。

```

:=====
: 'Diff Doc' (DiffDoc) Excel用実例バッチファイル。(WWW.SoftInterface.COM)
:
: 最も必要性に適合した例を選んで適切に修正してください。
: 例1-3、Excelファイルの比較
:   例1 (二つのExcelスプレッドシートを比較)
:   例2 (二つのExcelスプレッドシートを比較、シート番号を指定)
:   例3 (二つのExcelスプレッドシートを比較、シート番号、行および列を指定)
:
: 例A-C、レポートを作成
:   例A (二つのExcelスプレッドシートを比較、レポートを作成 (HTML)、一括表示)
:   作業完了時に終了
:   例B (二つのExcelスプレッドシートを比較、レポートを作成 (TXT))
:   作業完了時に終了
:   例C (二つのExcelスプレッドシートを比較、レポートを作成 (CSV))
:   作業完了時に終了
:
: 注: 長いファイルパスについては、二重引用符を使用します。
:     例: /L"D:\長いパス\A.XLS"

```

```

:
:=====
:-----
:   例1 (二つのExcelスプレッドシートを比較)
:
: "D:\A\Descarte.XLS"と"D:\A\Plato.XLS"を比較する: /M d:\a\Descarte.xls
/S d:\a\Plato.xls
: ログファイルD:\A\Compare.LOGを作成する: /L D:\A\Compare.log
:
:-----
DiffDoc /M d:\a\Descarte.xls /S d:\a\Plato.xls /L D:\A\compare.log

:-----
:   例2 (二つのExcelスプレッドシートを比較、シート番号を指定)
:
: "D:\A\Descarte.XLS"と"D:\A\Plato.XLS"を比較する: /M d:\a\Descarte.xls
/S d:\a\Plato.xls
: ログファイルD:\A\Compare.LOGを作成する: /L D:\A\Compare.log
: オリジナルファイルと修正ファイルの両方について2番目のシートを指定する: /Y2 /Z2
:
:-----
DiffDoc /M d:\a\Descarte.xls /S d:\a\Plato.xls /L D:\A\compare.log /Y2
/Z2

:-----
:   例3 (二つのExcelスプレッドシートを比較、シート番号、行および列を指定)
:
: "D:\A\Descarte.XLS"と"D:\A\Plato.XLS"を比較する: /M d:\a\Descarte.xls
/S d:\a\Plato.xls
: ログファイルD:\A\Compare.LOGを作成する: /L D:\A\Compare.log
: オリジナルファイルと修正ファイルの両方について2番目のシートを指定する: /Y2 /Z2
: オリジナルファイルと修正ファイルの両方について行12-28を指定する: /1 12-24 /3
12-24
:
:-----
DiffDoc /M d:\a\Descarte.xls /S d:\a\Plato.xls /L D:\A\compare.log /Y2
/Z2 /1 12-24 /3 12-24

:-----
:   例A (二つのExcelスプレッドシートを比較、レポートを作成 (HTML)、一括表示)
:   作業完了時に終了
:
: "D:\A\Descarte.XLS"と"D:\A\Plato.XLS"を比較する: /M d:\a\Descarte.xls
/S d:\a\Plato.xls
: ログファイルD:\A\Compare.LOGを作成する: /L D:\A\Compare.log
: 対象ファイル"D:\A\Report.HTM"に対するレポートを作成する: /T D:\A\Report.HTM
: HTML形式のレポートフォーマットを指定する: /R1
: 一括表示スタイルを指定する: /F1
: レポートを開き、作業完了時に終了する: /O /X
:
:-----
DiffDoc /M d:\a\Descarte.xls /S d:\a\Plato.xls /L D:\A\compare.log /T
D:\A\Report.HTM /R1 /F1 /O /X

:-----
:   例B (二つのExcelスプレッドシートを比較、レポートを作成 (TXT))
:   作業完了時に終了
:
: "D:\A\Descarte.XLS"と"D:\A\Plato.XLS"を比較する: /M d:\a\Descarte.xls
/S d:\a\Plato.xls

```

```
: ログファイルD:\A\Compare.LOGを作成する: /L D:\A\Compare.log
: 対象ファイル"D:\A\Report.TXT"に対するレポートを作成する: /T D:\A\Report.TXT
: TXT形式のレポートフォーマットを指定する: /R2
: レポートを開き、作業完了時に終了する: /O /X
:
:-----
```

```
DiffDoc /M d:\a\Descarte.xls /S d:\a\Plato.xls /L D:\A\compare.log /T
D:\A\Report.TXT /R2 /O /X
```

```
:
: 例C (二つのExcelスプレッドシートを比較、レポートを作成 (CSV))
: 作業完了時に終了
```

```
:
: "D:\A\Descarte.XLS"と"D:\A\Plato.XLS"を比較する: /M d:\a\Descarte.xls
/S d:\a\Plato.xls
: ログファイルD:\A\Compare.LOGを作成する: /L D:\A\Compare.log
: 対象ファイル"D:\A\Report.CSV"に対するレポートを作成する: /T D:\A\Report.CSV
: CSV形式のレポートフォーマットを指定する: /R3
: レポートを開き、作業完了時に終了する: /O /X
:
:-----
```

```
DiffDoc /M d:\a\Descarte.xls /S d:\a\Plato.xls /L D:\A\compare.log /T
D:\A\Report.CSV /R3 /O /X
```

---

## 言語の切り替えまたは追加

'Diff Doc'は、[表示] - [言語] メニュー項目を使用することにより言語の選択を考慮しています。このメニューから、利用可能な言語を選択することができます。言語設定を有効にするには、プログラムを再起動しなければなりません。

言語の追加や修正は、言語ファイルを編集してそれを“Language”フォルダに置くだけであり、きわめて簡単な作業です。“Language”フォルダは、通常は以下のようなインストールフォルダ内にあります。

C:\Program Files\Softinterface, Inc\DiffDoc\Languages\

代表的な言語ファイル名は次のとおりです。

**Japanese-'Diff Doc'.txt**

**German-'Diff Doc'.txt**

このファイルの名前はひじょうに重要であるということに留意してください。というのは、'Diff Doc'は、利用可能な言語ファイルの一覧を作成するために“Language”フォルダ内のすべてのファイル名を参照するからです。言語ファイルの名前の形式は以下のとおりです。

Language-'DiffDoc'.txt

言語を追加するには、既存の言語ファイルをコピーしてファイル名を変更し、内容を編集します。

言語ファイルのフォーマットは以下のようになっています。

"英語","訳語"

"Ok (英語) ","Si (スペイン語) "

"Without (英語) ","Sin (スペイン語) "

.

英語と訳語の間にはスペースを挿入してはいけません。たとえば、以下のよう  
なフォーマットでは正常に機能しません。

"英語", "訳語"

"Ok (英語) ", "Si"

"Without (英語) ", "Sin (スペイン語) "

増大する言語ファイルアーカイブに貢献して、フリーライセンスを受けたい  
と思われる方は、下記を参照してください。

[http://www.softinterface.com/MD/MD\\_Languages.htm](http://www.softinterface.com/MD/MD_Languages.htm)

既存の言語ファイルの誤りのご指摘は、大いに歓迎いたします。

---

## 'Diff Doc'を使用するために必要なもの

'Diff Doc'をインストールしてその使用をサポートするためのハードウェア  
およびソフトウェアの最少必要条件は以下のとおりです。

- メモリ16MBおよび空き容量3MBのハードディスクドライブをそなえた  
IBM PC/AT (Pentium以降のCPU) またはその互換機。
- VGAまたはSVGAディスプレイアダプタ。
- 32ビットのWindowsオペレーティングシステム (Microsoft Windows 95、  
Windows 98、Windows 2000、Windows XPを含む)
- MS Wordの文書を比較する場合はMS Wordが必要になります。

---

## 更新情報

何か問題が発生した場合は、以下の手順で原因を調べて必要な措置を講じな  
ければなりません。

1. このマニュアルを調べ直す。
2. SoftInterfaceのウェブサイトを更新、ヘルプ情報、FAQ、提案をチェック  
する ([http://www.softinterface.com/md/md\\_faq.htm](http://www.softinterface.com/md/md_faq.htm))。最新のバグフィクス  
で更新されたFAQや改訂情報が用意されています。ご使用の製品を検索  
してFAQページをチェックしてください。
3. 何か質問があれば、[Support@SoftInterface.COM](mailto:Support@SoftInterface.COM)宛に電子メールでお問  
い合わせください。

'Diff Doc'の使いやすさとこのマニュアルが、いざという時にお役に立てれ  
ば幸いです。

---

## インストール

セットアッププログラムを実行してコンピュータにインストールする場合、  
インストールするハードドライブを指定することができます。整合性を保つ

ために（たとえ要求されていなくても）、推奨ディレクトリにインストールすることをお勧めします。

‘Diff Doc’のメディアに付属している“Setup.EXE”を実行してください。タスクバーの [スタート] ボタンをクリックして実行するか、または [ファイル名を指定して実行] メニューオプションを選択します。“Setup.EXE”プログラムが置かれている場所に対するパスを入力してください。以下に一例を示します。

#### A: setup

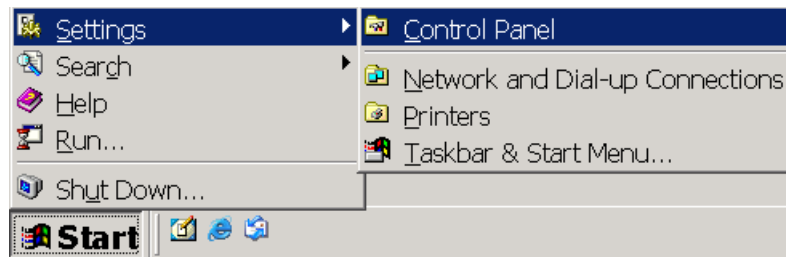
[Enter] を押して、画面に表示されるインストールの指示に従ってください。

---

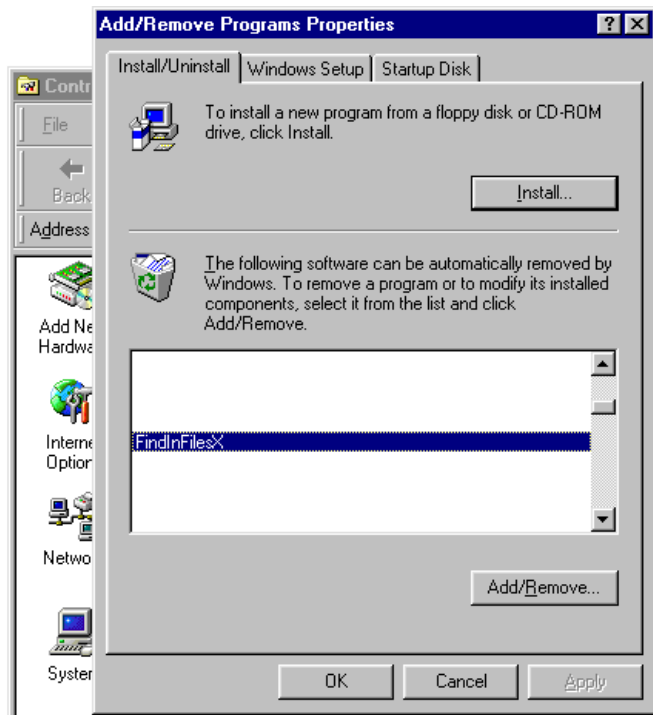
## アンインストール

製品を新しいバージョンにアップグレードする前に、アンインストールをおこなうことを強くお勧めします。

アンインストールを実行するには、タスクバーの [スタート] ボタンをクリックして [設定] を選択し、つぎに [コントロールパネル] を選択します。



[コントロールパネル] で [プログラムの追加と削除] アイコンを選択します。リストボックスの'Diff Doc'エントリをダブルクリックするか、[追加と削除] ボタンを押してアンインストールを実行します。



インストール時にコピーされたすべてのファイルが削除されます（ただし、削除しようとするファイルにその他のプログラムが現時点で依存していない場合に限りです）。さらに、インストールディレクトリに追加されたファイル（たとえば、ユーザーが作成したプログラムファイル）があれば、削除できなかったディレクトリがあるという旨をアンインストールウィザードが通知します。それらのファイルについては、ユーザーが手作業で削除しなければなりません。

## 付属書類 A サンプルレポート

---

テキストの比較（一括表示）

### 'Diff Doc'結果

日時:3/5/2002 1:53:03 PM

オリジナルファイル: D:\Delme\1\md\_master.TXT  
 修正ファイル: D:\Delme\2\md\_source.TXT

ファイルの比較結果：  
 検出された変更箇所 3  
 検出された追加箇所 0  
 検出された削除箇所 0

#	[オリジナル] D:\Delme\1\md_master.TXT <-----> [修正] D:\Delme\2\md_source.TXT	#
1	Dear Friend	1
2		2
3	'Diff Doc' now compares paragraphs with <del>VERY</del> great detail. So many people demanded this feature <del>dat that</del> we <b>DEFINITELY</b> had to put it in. Keep the great feedback coming so we can <del>continue to</del> deliver quality products!	3
4		4
5	Also: CompareFilesX has now added a "synchronous" file compare routine, eliminating the need to use a separate thread.	5
6		6
7	And Finally: WordConvererX now as a DLL interface.	7
8		8
9	Please go to our website to try our latest software.	9
10		10
11	Best <del>Reg ards, Regards,</del>	11
12		12
13	Allen Segall	13
14	(SoftInterface, Inc.)	14
15	<del>WWW.SoftInterface.COMM WWW.SoftInterface.COM-</del>	15
16	"Don't Face the Soft Facts of Life Alone"	16

## テキストの比較 (2 列表示)

# 'Diff Doc'結果

日時:1/25/2002 6:42:05 PM

オリジナルファイル: D:\Delme\1\md\_master.TXT  
 修正ファイル: D:\Delme\2\md\_source.TXT

ファイルの比較結果：  
 検出された変更箇所 10 行  
 検出された追加箇所 1 行  
 検出された削除箇所 1 行

#	[オリジナル] D:\Delme\1\md_master.TXT	[修正] D:\Delme\2\md_source.TXT	#
1	Product Information Form	Product Information Form	1
2			2
3	Please enter the following information as you wish it to	Please enter the following information as you wish it to	3

	be presented on our site:	be presented on our site:	
4			4
5	Program Name: FindInFilesX Pro	Program Name: FindInFilesX Pro	5
6			6
7	Release date: 12/1/2000	Release date: 12/1/2000	7
8			8
9	Your SKU/Part number: 2001	Your SKU/Part number: 2001	9
10			10
11	Platform(s) that program is compatible with: All 32 bit OCX Hosting Development Environments	Platform(s) that program is compatible with: All 32 bit OCX Hosting Development Environments	11
12			12
13	Language Version: N/A	Language Version: N/A	13
14			14
15	System Requirements: 32 bit Operating System, 32 bit development environment	System Requirements: 32 bit Operating System, 32 bit development environment	15
16			16
17	Long product description (Max. 250 words): FindInFilesX, grep, is designed to assist developers to quickly add a text search utility to <b>their</b> end products. The parsing of files for text is encountered often in all areas of software programming. A key feature of this OCX is that it runs on a separate thread allowing the end users application to continue <b>functioning</b> in a responsive manner.	Long product description (Max. 250 words): FindInFilesX, grep, is designed to assist developers to quickly add a text search utility to <b>ther</b> end products. The parsing of files for text is encountered often in all areas of software programming. A key feature of this OCX is that it runs on a separate thread allowing the end users application to continue <b>work</b> in a responsive manner.	17
18			18
19	FindInFilesX encapsulates all details required for quick integration.	FindInFilesX encapsulates all details required for quick integration.	19
20			20
21	LONGER DESCRIPTION:	LONGER DESCRIPTION:	21
22	FindInFilesX, grep, is designed to assist developers to quickly add a text search utility to their end products. The parsing of files for <b>text</b> is encountered often in all areas of software programming.	FindInFilesX, grep, is designed to assist developers to quickly add a text search utility to their end products. The parsing of files for <b>taaext</b> is encountered often in all areas of software programming.	22
23	Pro vs. Standard Feature Differences	Pro vs. Standard Feature Differences	23
24	FEATURE	FEATURE	24
25	STANDARD	STANDARD	25
26	PROFESSIONAL	PROFESSIONAL	26
27	Regular Expression	Regular Expression	27
28	Not implemented	Not implemented	28
29	Implemented	Implemented	29
30	Parsing Speed	Parsing Speed	30
31	Standard	Standard	31
32	3x Standard	3x Standard	32
33	Built In GUI	Built In GUI	33
34	Output Display of results dialog, and the FindInFilesOptions dialog are built in.	Output Display of results dialog, and the FindInFilesOptions dialog are built in.	34
35	None. Visual Basic source code for the demonstration program is provided however.	None. Visual Basic source code for the demonstration program is provided however.	35
36	Search Engines separate thread of execution	Search Engines separate thread of execution	36
37	Out of process server	Out of process server	37
38	Thread launched within containing application	Thread launched within containing application	38

39	Persistence of Search Options and Attributes	Persistence of Search Options and Attributes	39
40	All options and attributes are persistent	All options and attributes are persistent	40
41	Only Boolean options are persistent.	Only Boolean options are persistent.	41
42	Language used to create component	Language used to create component	42
43	Microsoft Visual Basic	Microsoft Visual Basic	43
44	Microsoft Visual C++	Microsoft Visual C++	44
45			45
46	Short product description (Max. 15 words): FindInFilesX is designed to assist developers to quickly add a text search utility to their end products.	Short product description (Max. 15 words): FindInFilesX is designed to assist developers to quickly add a text search utility to their end products.	46
47			47
48	Special instructions for customer: Check WWW.SoftInterface.COM for latest release information.	Special instructions for customer: Check WWW.SoftInterface.COM for latest release information.	48
49	(These will be sent to the customer in their)	(These will be sent to the customer in their)	49
50			50
51	Key words for our Search Engine: Grep, Find,Text, Sort, File, Case, Sensitive, Parse, Visual, Basic, OCX,ActiveX, FindInFilesX, SoftInterface	Key words for our Search Engine: Grep, Find,Text, Sort, File, Case, Sensitive, Parse, Visual, Basic, OCX,ActiveX, FindInFilesX, SoftInterface	51
52	(Max. 15 unique words, each word comma separated. Words that are separated by a space indicated separate words - ex. "Anti Virus" should be "anti, virus")	(Max. 15 unique words, each word comma separated. Words that are separated by a space indicated separate words - ex. "Anti Virus" should be "anti, virus")	52
53			53
54	Categories: Component, Tool, ActiveX, Utility, Text, Editor	Categories: Component, Tool, ActiveX, Utility, Text, Editor	54
55			55
56	Program file: FiFx Latest Release.ZIP	Program file: FiFx Latest Release.ZIP	56
57	(This is the file the customer will down load. A self-extracting .exe or .bin file if a Mac product. File name should be alpha numeric only with no spaces, it is also recommended to use a unique file name that has some reference to product, version & language - ex. (abc2eng.exe)	(This is the file the customer will down load. A self-extracting .exe or .bin file if a Mac product. File name should be alpha numeric only with no spaces, it is also recommended to use a unique file name that has some reference to product, version & langbbbuage - ex. (abc2eng.exe)	57
58			58
59	License Agreement (EULA): See Bottom	License Agreement (EULA): See Bottom	59
60	(If no EULA is supplied, Buyonet will provide the customer with a general EULA)	(If no EULA is supplied, Buyonet will provide the customer with a general EULA)	60
61			61
62	Picture file (gif or jpg format):	Picture file (gif or jpg format):	62
63	(Displayed next to the description of the product,logo)	(Displayed aside to the description of the product logo)	63
64			64
		THIS LINE WAS ADDED	65
65	Screen Shots picture file (up to 4):	Screen Shots picture file (up to 4):	66
66			67
67			68
68			69
69			70
70			71
71			72
72			73
73	(recommended size 640 x 480 - also .gif or .jpg format)	(recommended size 640 x 480 - also .gif or	74

		.jpgccformat)	
74			75
75	Type of release: New <b>Product</b>	Type of release: New <b>Product</b> .	76
76	(new product, upgrade, bug fix, etc...)	(new product, upgrade, bug fix, etc...)	77
77			78
78	Old version(s) to be removed from the site:	Old version(s) to be removed from the site:	79
79			80
80	Territory restrictions:	Territory restrictions:	81
81	(countries where the product cannot be sold)	(countries where the product cannot be sold)	82
82			83
83	Software License and Software Disclaimer	Software License and Software Disclaimer	84
84	This a legal document which is an agreement between you, the Licensee, and SoftInterface, Inc.. By opening/installing the software, Licensee agrees to become bound by the terms of this agreement, which include the Software License and Software Disclaimer of Warranty.		
85	License	License	85
86	This software, (herein after "Software") is owned by SoftInterface, Inc., which reserves all rights not granted to you by this Agreement. .	This software, (herein after "Software") is owned by SoftInterface, Inc., which reserves all rights not granted to you by this Agreement	86
87			87
88	You May:	You May:	88
89	1. Use the Software on only one computer by one user at a time, even if the Software is distributed in more than one disk size or format The Software is in "use" on a computer when it is loaded into temporary memory (i.e. RAM) or installed into permanent memory (e.g. hard disk, or other storage device) of that <b>machine</b> .	1. Use the Software on only one computer by one user at a time, even if the Software is distributed in more than one disk size or format The Software is in "use" on a computer when it is loaded into temporary memory (i.e. RAM) or installed into permanent memory (e.g. hard disk, or other storage device) of that <b>computer</b> .	89
90	2. Make one backup copy of the software.	2. Make one backup copy of the software.	90

# 付属書類 B トラブルシューティング

---

## 一般的な問題

SoftInterfaceのウェブサイト ([www.SoftInterface.COM](http://www.SoftInterface.COM)) には、‘Diff Doc’の最新情報があります。以下の手順でトラブルシューティングをおこなうことをお勧めします。

- このマニュアルを調べ直す。
- [FAQ \(よくある質問\)](#)
- [バグリスト](#)
- [最新のパッチ/ダウンロード](#)

最終的に、依然として解決できない問題がございましたら、“[Support@SoftInterface.COM](mailto:Support@SoftInterface.COM)”宛に電子メールでお問い合わせください。



